



# 関東歯内療法学会

関東歯内療法学会 第29回サマーセミナー

テーマ

変色歯への対応～漂白から修復まで

大会長

興地隆史 教授（日本歯科大学 生命歯学部）

実行委員長

三枝慶祐 助教（日本歯科大学 生命歯学部）

主催

関東歯内療法学会

# タイムスケジュール

---

2026年9月3日(木)

## サマーセミナー

---

- 17:00～ 大会長開演挨拶  
日本歯科大学生命歯学部歯科保存学講座 興地隆史教授  
協賛企業挨拶  
トロフィー・ラジオロジー・ジャパン株式会社代表
- 17:10～18:10 須藤 享先生ご講演
- 18:10～19:10 天川由美子先生ご講演
- 19:10～19:30 質疑応答
- 19:40～20:30 ビアパーティー

## 場所

---

### サマーセミナー

日本歯科大学生命歯学部8階 富士見ホール

〒102-8159 東京都千代田区富士見 1-9-20  
<https://www.tky.ndu.ac.jp/about/access.html>

## 募集人数

---

■ サマーセミナー 200名

## 参加費

---

### ■ サマーセミナー

日本歯内療法学会会員：¥8,000

非会員：¥10,000

学生：¥3,000

日本歯内療法学会非会員で当日入会される方：入会金¥17000

※サマーセミナー参加費は無料になります。

学生、大学院生、研修医：身分証の提示をお願いします。提示がない場合は非会員扱いとなります。



## 第29回サマーセミナー

---

講演

変色歯への対応～漂白から修復まで

---

## 「ウォーキングブリーチ、どうやっていますか？」

須藤 享先生

医療法人くすのき 南光台歯科医院 理事長

失活歯の変色を目にすることは多い。患者に「歯の色、気になりませんか？」と尋ねると、大抵の人は不満を訴える。歯冠補綴にて審美性を回復させることもできるが、私は歯質保存という観点から、ウォーキングブリーチを患者に勧めることが多い。20年ほど前までは保険算定可能であったため、気軽にウォーキングブリーチを行えたが、現在は自費治療でしか行えず、ある程度の結果を出すことが求められることになる。しかし、変色の原因や程度によっては期待していた効果が得られないこともあり、残念ながら後戻りも発生してしまう。安易に行うとトラブルを生んでしまうため、術前コンサルテーションが非常に重要となる。さらに、ウォーキングブリーチを行う上での大きな問題点は、国内には保険認証を得ている漂白剤がない、ということである。使用する過ホウ酸ナトリウムは、試薬でしか入手できない（その点も、保険収載から外れてしまった大きな要因なのであろう）。そういった背景もあってか、詳細な治療手順についての解説はほぼないと言えるだろう。いざ行うとなれば、漂白処置そのものだけでなく、漂白前処置や漂白処置後の修復治療など検討すべき項目は多い。

そこで今回は、私の現時点でのプロトコルを提示させていただく。けして「これがベスト！」ということではなく、詳細を提示する事でご参加いただく先生方とのディスカッションを通じて、よりよいプロトコルへとブラッシュアップする機会になればと思っている。

### 略歴

1995年 横浜国立大学工学部 卒業  
1997年 横浜国立大学大学院工学研究科 修了  
2007年 東京医科歯科大学歯学部 卒業  
2010年 東京医科歯科大学 歯髄生物学分野 専攻生 修了  
2013年 医療法人くすのき 南光台歯科医院 開設  
2020年 東北大学歯学研究科 歯科保存学分野 修了

東北大学歯学研究科 歯科保存学分野 臨床准教授

## 「MI時代の変色歯審美修復治療」

天川由美子先生

東京都港区 天川デンタルオフィス外苑前

失活歯、特に前歯部では変色を伴う症例が少なくない。その主な原因の一つとして、歯内療法時に残存した歯髄組織や血液成分が歯質内に取り残されることが挙げられる。本講演では、MI (Minimal Intervention) の概念に基づき、変色歯、特に失活歯に対する審美修復治療について検討する。

近年、接着技術および修復材料の進歩により、変色歯に対しても健全歯質を可能な限り温存しながら、高い審美性を実現する治療が可能となってきた。従来、失活歯の変色に対しては全部被覆冠などの補綴修復が選択されることが多かったが、現在ではホワイトニング、ダイレクトコンポジットレジン修復、ラミネートベニア修復など、より低侵襲な治療選択肢が広がっている。

失活歯の審美修復においては、変色の原因や程度、残存歯質量、咬合条件、さらに患者の審美的要求を総合的に評価した上で、最適な治療法を選択することが重要である。本講演では、実際の症例を通して各治療法の適応、利点および限界を整理し、MI時代における変色歯審美修復の臨床的判断基準について考察する。審美性と機能性を両立させるための実践的アプローチを提示し、日常臨床に有用な知見を共有したい。

### 略歴

1994年 鶴見大学歯学部卒業  
1999年 鶴見大学大学院修了 博士(歯学)  
2007年 港区 天川デンタルオフィス外苑前 開設  
2009年 Women Dentists Club 東日本支部長  
2011年 関東歯内療法学会 常任理事  
2020年 Women Dentists Club 会長  
2023年 Women Dentists Club 常任理事  
現在に至る

### 所属

日本歯内療法学会(専門医)、日本接着歯学会、日本顎咬合学会、日本審美歯科協会  
日本臨床歯科学会(東京S J C D)、日本アンチエイジング歯科学会  
港区麻布赤坂歯科医師会、Women Dentists Club

### 著書

単著

あまかわゆみこのMI 審美成功の秘訣:

コンポジットレジン修復 & ラミネートベニア修復のテクニック クインテッセンス出版, 2023.11

共著

白歯部コンポジットレジン修復ーMI時代の臨床戦略ー 医歯薬出版, 2025.9

など多数

